

第七次土岐市総合計画基本構想(案)意見聴取への回答について

4月28日時点(最終)

項 目	No	提出されたご意見	提出日	回 答
第3章 まちづくりの課題	1	若者の婚姻率や出生率を向上させることは、簡単なことではないと思います。 むしろ、若い子育て世帯の住みよい環境を整備したり、子育て世帯にあともう一人子供を増やしても安心して子育て出来るという環境を整えることが大切だと思います。また、東濃5市の中で子育てするなら土岐市が一番子育てしやすいと思ってもらえることがポイントだと思います。 細かなことでいうと、実質使い物にならない病児保育の制度は早急に改善が必要かと思っています。	4月13日	今後、総合計画基本構想目標達成のための施策を取りまとめた「第七次土岐市総合計画実施計画」を、令和7年秋を目途に策定します。いただいた意見については、実施計画の策定の参考とさせていただきます。
	2	行政で出来ることは少ないと思いますが、駅前のにぎわいが街を印象付けるのは間違いないので起業者にスペースを貸し出すなどして空き地空き家を埋める工夫が必要だと思います。また、土岐市は線路を挟んで南北の行き来がしにくいので南北の行き来がしやすいようにする工夫も必要かと思っています。		
	3	元々、市外の出身ですので、土岐市が「美濃焼生産日本一の知名度」にこだわることには多少違和感があります。 もちろんPRで知名度を上げることも大切だと思いますが、この先主要産業として美濃焼を維持出来るかどうか大切だと思います。 仕事で製造業の現場を回りますが、窯業の現場は小規模な会社が多くその多くはかなり古い設備をメンテナンスしながら操業しています。 設備が完全に壊れて修理出来なくなったときに廃業となり、美濃焼生産量の減少につながるのではないかと思います。 土岐市として販路の拡大や設備の貸し出し、事業者の連携の手助けなど小規模事業者をバックアップ出来る体制が必要だと感じます。		
	4	定住に向けて人を惹きつけることは必要だと思いますが、今以上に観光に力を入れる必要があるとは思えません。 美濃焼を前面に押し出すのであれば、体験型のイベントを定期的に行うことが一番だと思います。 選択と集中で後回しでも良い気がします。		
	5	災害時の自助、共助の大切さを考えると町内会による防災倉庫の拡充支援や用地の提供などを進める必要があると思います。 また、最近は町内会に入会しない世帯も増えているようですので、町内会に所属することで共助に参加できるといった行政からのPRも必要ではないでしょうか？ 公共交通機関の拡充は課題だと思いますが、寂れた駅前の改善の一環として駅前にインフラを集中させコンパクトシティを目指してはどうでしょうか？ 市の郊外からのアクセスも駅を中心に考えられるので、公共交通機関の拡充もしやすくなると思います。		
	6	教育の方針を決める事は難しい事だと思いますが、子供たちが様々な体験の出来るような体験型のカリキュラムが増えるといいなと思います。		

第七次土岐市総合計画基本構想(案)意見聴取への回答について

4月28日時点(最終)

項 目	No	提出されたご意見	提出日	回 答
	7	行政が課題に対して有効な対策をとるためにはお金が必要です。 その為には税収が必要ですので、土岐市の人口をいかに維持、増加させるかが一番大切ではないかと思ひます。 必要性の少ないサービスや効率の悪いものは一時的に休止したり改善、廃止しても仕方ないだらうと思ひます。 DXについてですが、毎年のように同じ手続きをするものや役所への提出書類はすぐにもデジタル化すべきだと思ひます。 例えば、提出書類についてはパソコンや役所に専用端末を設置してチュートリアル通りに入力していけば書類が完成する形にすれば、よほどの高齢者でなければ自己完結すると思ひますし、それをサポートする人材も最小限で済むのではないかと思ひます。 今後、間違いなく人手不足は加速しますし、システムは意欲のある他のいくつかの自治体と共同で構築すればコスト的にもシステムのにもよいものができるのではないかと思ひます。 土岐市だけで検討するのではなく、他の行政を巻き込むことが必要だと思ひます。		
	8	町内会に参加する世帯が減っていますが、町内会に参加しないデメリットって何でしょうか？ ゴミ捨てがし難いとも聞きますが、参加しないデメリットが感じられにくいと感じます。 参加しないよりも参加したほうがメリットがあると感じられるようなPRが必要だと思ひます。 町内会の活動が充実しなければ、行政の負担は軽減できないと思ひます。 市民が市政に参加するために、このパブコメは大切だと思ひますがもう少しハードルが低いとよいのかもしれない。 大きなくりに意見を求めるのではなく、課題を小さく区切って意見を求める工夫が必要だと思ひます。		
第1編 序論 第2章 計画策定の背景 1. 社会潮流	9	5ページの(5)中、7～8行目の「……行政による「公助」には限界があるため、……」を「……行政による「公助」の充実に加え、……」に改める。	4月28日	ご指摘の点については、能登半島地震など大規模な災害の事例から避難行動や避難所運営などを全て公助まかなうことは困難であるという反省を踏まえたこと、また審議会で防災に関する意識の浸透や防災士などの民間組織の充実連携についてご意見をいただいたことから、「自助」や「共助」の取組を進めていくことが重要であると考えております。記載の修正はいたしません、いただいた意見については、実施計画の策定の参考とさせていただきます。
第3章 まちづくりの課題	10	22ページの「第3章 まちづくりの課題」(1)中、10～11行目の「……このため、地域全体で……」を「……このため、公共交通の充実を図るとともに、地域全体で……」に改める。		ご指摘の点については、公共交通の充実については土岐市の重点課題であると認識しており、総合計画基本構想の、第3章 まちづくりの課題のうち(5)安全・安心で暮らせる地域の形成で記述しております。重複となるため修正はいたしません、いただいた意見については、実施計画の策定の参考とさせていただきます。
第2編 基本構想 第3章 基本目標と計画の体系 1. 基本目標	11	30ページの「基本目標5 環境と調和した持続可能で安全安心に暮らせるまち」中に、「温暖化の進行による気候変動に歯止めをかけるため、脱炭素社会をめざします。」を加える。		ご指摘の点については、土岐市では脱炭素社会をめざしてゼロカーボンシティ宣言をしており、総合計画でも基本目標5の説明文で「環境との調和を図り、土岐市の大きな魅力である豊かな水と緑の自然を守ります。」と記載しております。脱炭素社会を包含した内容の記述があるため修正はいたしません、いただいた意見については、実施計画の策定の参考とさせていただきます。